

- | |
|---|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策
①FD体制の整備充実 |
|---|

特に効果的であり改善に資した事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

①FD体制の整備充実

《人社系》

●信州大学教育学研究科

「授業研究アリーナで共創する「臨床の知」」の事例

(具体的に何を実施したのか)

チーム指導體制の構築・運営には、学内教員の連携が必要不可欠である。このような観点から、アクション・リサーチ部会およびFD・フォーラム部会を中心として、学内FDの取り組みを進めてきた。

アクション・リサーチ部会において大学院GP連続学習会(全13回)を企画・運営した。また、FD・フォーラム部会の企画・運営による大学院GPフォーラム及び大学院GP国際フォーラム等を開催した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本GPを推進していくために、5つの部会およびそれを統括する大学院GP常任委員会を構成した。本事項に関しては、FD・フォーラム部会およびアクション・リサーチ部会が担当し、本GPの目的を共有したり、学内教員の連携を促進したりできるような企画を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

アクション・リサーチ部会とは、本取り組みの中心的なコンセプトであるアクション・リサーチの方法論やそれにもとづく具体的な取り組みについて、学内において情報交換・意見交流し、議論を深めていくこと、そしてそのための機会を提供することを担う部会である。平成20～21年度にかけて、「大学院GP連続学習会」を企画し、全13回にわたり開催・運営してきた。その中では、学部教員が各専修における授業研究の実践や現職教員、大学院生との関わりについてレポートしたほか、授業研究アリーナの研究中間報告を行うなど、学内において授業研究、アクション・リサーチの方法論およびその具体的な取り組みについて発信した。授業研究の方法論について相互に学びを深めるだけでなく、それを切り口として、大学院教育をめぐる様々な課題について率直に意見交換を行う機会を提供するものであったと言える。

また、FD・フォーラム部会では、大学院GPフォーラムおよび国際フォーラムの企画・運営を行い、本取り組みを広く学内外に発信していくとともに、チーム指導體制の構築およびその円滑な運営を実現するためのFD活動を展開してきた。大学院GPフォーラムでは、①大学院教育課程の改善及び現職教員の指導體制充実に向けた視点の明確化、②授業研究アリーナ創出の意義・課題の共有化、③授業研究アリーナ、研修教員アリーナの実施状況の報告と成果・課題の明確化を目的として、3年間を通じて議論の蓄積と深まりを実現するものであったと考えられる。そして、本GPでの取り組みを国際的な視野から問い直し、さらなる発展を実現するため、「大学院GP国際フォーラム2009」を開催した。加えて、平成

1. 特に効果的であり改善に資した事例
C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策
①FD体制の整備充実

21年度末には、大学院 GP での取り組みを今後の大学院における教育課程の改革にさらに結びつけていくことを目的として、本学教育課程委員会と合同で、「これからの養成教育と現職教育—教育学部・研究科組織のあり方の検討に向けて—」と題したフリートーキングの会を企画し、大学院 GP での成果をさらに発展させていくための道筋について議論を深めることができた。

●大阪市立大学文学研究科

「国際発信力育成インターナショナルスクール」の事例

(具体的に何を実施したのか)

通常のFD活動とは別に、「大学院教育改革プログラム」は本研究科全体の教育改革であるとの自覚のもと、「国際発信力育成インターナショナルスクール」に特化したFD研修会を少なくとも年に1度開催した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

教授会ではインターナショナルスクール運営委員会事項という議題を毎回設置し、教育改革としてのインターナショナルスクール諸事業の進捗状況を報告し、周知徹底を図り、インターナショナルスクールに特化したFD研修会への参加も促した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

インターナショナルスクール集中科目が、研究科内の専攻を越えての科目であり、各教員が所属する専攻以外の大学院生を指導する機会が飛躍的に多くなった。また、インターナショナルスクール日常化プログラムとあいまって、若手研究者を含む研究者が専攻を越えて研究交流するようになった。大学院教育を念頭においたFD研修会でも、教育カリキュラム、教育方法、授業外活動等について、専攻を越えて情報を共有し、より深い議論をすることが可能となった。

《理工農系》

●筑波大学システム情報工学研究科リスク工学専攻

「達成度評価システムによる大学院教育実質化」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本プログラム独自の試みとして、①学生による授業モニタリング、②海外および国内FD調査、③相互授業参観・授業レビュー、④プレFD (PFF-preparing future faculty) を実施した。

海外および国内FD調査では、海外短期滞在によって、米国のティーチングアシスタント (TA) の利用事情を調査するとともに、欧州のボローニャプロセスの実施状況を調査した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例
C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策
①FD体制の整備充実

また、相互授業参観と授業レビューでは、専任教員が担当するすべての講義科目について授業参観を行った。参観は各授業について1回分行われ、数人の参観教員が、その授業の長所・改善点などを記して担当教員の見解を求める形式のレビューを行った。プレFDとしては、博士後期課程学生を対象としたプレFD研修会と学生による模擬講義を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

一般的には教員自身が敬遠する教員相互の授業参観の実施について、その必要性を教員会議等で議論し合意を得ることに腐心した。また、参観教員がその授業の長所・改善点などを記して担当教員の見解を求める形式の対応を行うよう工夫した。

後期課程学生による模擬講義では、事前に授業の方法に関する講義を行うとともに、模擬講義後に教員からのアドバイスを行うなどを心がけた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

相互授業参観では、参観した教員から、様々な工夫が見られ参考になったという意見が多く、授業担当教員からもコメントが参考になったというポジティブな意見が多かった。

模擬講義では、実施した学生から、自分の無知を知る、体系化のために何が足りないかを知る、大学教員を目指す学生に留まらず研究機関就職を目指す学生にも有効、などの意見が出され、模擬講義を実践することの有効性が示唆された。

●北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科

「ナノマテリアル研究リーダーの組織的育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

FD研修会を企画の2年目、3年目と2回行なった。研究科の先生がほぼ全員泊りがけで、他大学や予備校の中で非常に造詣の深い方の講義を聞いて教育に関する勉強及び議論をおこなった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

泊りがけというのが大きな工夫。普段先生方は研究室運営が忙しくて横の繋がりがうすい。そういったものがこのFD研修会を通じて促進につながった。普段いえない悩みを語ったりというようなことが見られた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

例えば、若手の先生方から研究科への改善に関する提案などたくさん出た。例えば、博士論文の公聴会の先生の出席率が上がるなど、結果がみられた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例
C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策
①FD体制の整備充実

●奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本事業では平成10年度から取り組んでいる授業に関するFD(授業FD)を継続発展させるのに加え、大学院のみからなる大学の利点を生かし、研究指導の改善(研究指導FD)に取り組んだ。具体的に、授業評価授業FDでは、アンケートによる授業評価、FD学外委員の授業参観等を通じた改善提案、若手教員の海外大学でのFD研修を行った。研究指導FDの実践面では、若手教員を中心とし講座(研究室)の枠を越えた研究指導法の情報交換、研究指導に関するFD研修会を行った。また、知識面では、海外における研究指導法の調査、著名研究指導者によるセミナーを実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・学生に対する授業評価アンケートは学期末だけでなく学期途中にも取るようにした。学期途中のアンケートでは数値評価はせず、内容、進め方、教材についての要望を自由記入してもらい、教員がそれに応じて学期後半に対応・改善できるようにした。
- ・教員に対してもアンケートを取り、学生アンケートの有効性や改善への反映状況を確認しできるようにした。
- ・研究指導FDでは3年間で9名の教員がそれぞれ別の海外の大学・研究機関等を1～5か月間訪問し、現地での研究指導方法、教育方法や国際化に関しての情報収集を行ったが、得られた知見を共有するため、必ずFD研修会において発表報告させるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・平成16年度～平成21年度の学生による授業評価アンケートの数値評価部分の全科目平均値の推移を調べたところ、FDの効果が見られ、評価が向上していることが分かった。
- ・教員へのアンケートの結果、学生に対してより良い教育を行うために、各教員が様々な取り組みをしていることが分かった(例:「出席票やwikiでこまめに質問を受け付けるようにした」)。
- ・FD研修会では授業法のみならず教育システムそのものに対する具体的な様々な改善案が挙げられ、今後のFDの効果向上につなげることができた。

●奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

「2コース制によるバイオ人材育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

年3回、助教を含む全教員を対象にFD研修集会を実施し、カリキュラム方針の確認、講義の評価と反省、次年度のカリキュラムの改定について討論を行った。これらのFDに加え

1. 特に効果的であり改善に資した事例
C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策
①FD体制の整備充実

て、本プログラムではアメリカの大学での2週間から4週間の海外FDプログラムに若手教員を派遣し、また、アメリカからFD専門講師と優れた教員を招聘して学内で1週間の国際FD研修を行い、最新の教育方法について理論と実践の両面から研修を行なった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

若手教員の海外派遣あるいは米国からのFD講師招聘に際しては、大学院レベルでの教育に関するFDであることおよび日本の高等教育の現状を相手大学の担当者と事前に十分に打ち合わせた上で実行した。また、FDプログラムは少人数のセミナー形式を中心に行い、選抜した若手教員を集中的に受講させることにより、教育活動を指導できるコアとなる教員の育成を目指した。さらに、受講者による模擬講義や招聘FD講師による模範講義を実施して、理論のみでなく実践を含めた研修とした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

若手教員を中心に、カリキュラム編成においてこれまでの一方向的な講義ではなく、アクティブラーニングを基本とした双方向的講義を編成する機運が生まれた。また、米国で活用されているクリッカーやペンタブレットなどの教育IT機器の導入や講義中でのミニテストを活用することにより、学生を興味を引き付ける講義を行うようになった。

《医療系》

●東京医科歯科大学医歯学総合研究科口腔機能再構築学系専攻

「大学院から医療現場への橋渡し研究者教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

医歯工連携教育に必要な、大学院生教育に関するFDプログラムを策定して、実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生教育に関するFDは、これまでにほとんど実施された例がなく、画期的な試みとなった。また薬事・許認可に関する講義を取り入れた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

大学院生教育に関するFDを実施した結果、どのようにすれば研究シーズが実用化に結び付くか、という観点からの教育を、今まで以上に積極的に取り入れるようになった。